第３章

学ぶ意欲をはぐくむ授業
－ 研究協力校の実践 －

研究協力校における、アンケートの結果を踏まえた授業実践を紹介します。

◆研究協力校の実践事例

１　岩舟町立静和小学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　25
・児童に学習の流れを意識させる
事例１　理科４年「１日の気温の変化」
・身近な題材を取り扱うなど、課題の設定を工夫する
事例２　算数４年「式と計算」
・校内研修での取組
２　さくら市立南小学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　33
・子どもの興味・関心から学習課題を設定する
事例１　総合的な学習の時間３年「いろいろな仕事調べ」
・個のよさが生きる言葉かけをする
事例２　総合的な学習の時間３年「新聞記事から考えよう」
・人間関係に配慮して安心して学べる環境をつくる
事例３　学級活動６年「教室からなくそう NG サイン」
・学び合いで深い思考を促す
事例４　算数６年「順序よく整理して調べよう」
・一人一人の子どもを励まして、主体的な行動を促す
・思考の跡を残すことで、考えを深める
事例５　体育４年「ネット型ゲーム『プレルボール』」
・学校行事を通して挑戦すること、努力することの喜びを体験させる
事例６　学校行事「持久走大会」
３　那須塩原市立東那須野中学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　41
・キャリア教育の充実を通して、自己を見つめさせる
事例１　学級活動２年「職業について」
・体験を重視して、情報収集能力の向上を目指す
事例２　総合的な学習の時間１年「地域に学ぶ」
・学習の手順やゴールの姿を示し、進んで取り組ませる
事例３　国語１年「本の世界を広げよう」
・校内研修の取組
４　佐野市立西中学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　49
・学習課題を工夫する
事例１　社会３年「模擬裁判をやってみよう」
事例２　数学３年「二次方程式の利用」
事例３　英語２年「How can we find out?」
・相互に学び合う場を多く設定する
事例４　音楽２年「混声合唱の豊かな響きを味わおう」
・学習状況について情報を共有する
・学習習慣を確立する
・学びたくなる環境を整備する
・家庭学習の習慣化を支援する
・学習に関するアンケートを定期的に実施する

1 岩舟町立静和小学校

＊以下、学校名を静和小と表記

◆取組のポイント

○全教員が学ぶ意欲のプロセスに着目し、アンケートの結果を生かした授業づくりに取り組んだ。
○全教員が授業を年間１回以上公開し、お互いに参観し合った。（要請訪問とは別に実施）
○「学ぶ意欲をはぐくむための授業づくり」をテーマに夏季休業中にワークショップ型校内研修を実施するなど、教員が学び合う場を設定した。
○それぞれの教員が学ぶ意欲の向上に関する自己の取組をまとめ、冊子にすることで、学ぶ意欲を高める手だてについて共有化した。

◆学校課題との関連

研究主題：自分の思いや考えを生き生きと表現できる子どもの育成
～各教科等における言語活動の充実を目指して～
目指す児童像
・自分の感じたことや考えたことを分かりやすく表現する子ども
・生活経験や資料などを基にし、根拠をもって自分の考えをもてる子ども
・学んだことを生かしながら、自ら進んで課題解決に取り組む子ども

静和小では、お互いの立場や思いを尊重して、自分の考えをしっかりと伝える力が、子どもたちの主体的な学びや実生活に生きて働く力と考え、研究主題を設定しました。学ぶ意欲の構成要素に働きかけた授業を展開することは、本校の目指す児童像の実現につながるものと考えられます。

◆第１回アンケート結果及び実践の方向性

４年生のあるクラスの結果

安心して学べる環境	知的好奇心	有能さへの欲求	向社会的欲求	おもしろさと楽しさ	有能感	充実感
3.36	3.70	3.93	3.89	3.82	3.05	3.68

情報収集	自発学習	挑戦行動	深い思考	独立達成	協同学習
3.66	3.25	3.73	3.32	3.57	3.50

この学級は、すべての構成要素で非常に高い数値を示していますが、有能感が低めでした。このため担任のＡ教諭は、有能感を高めるために様々な構成要素に働きかけて成功体験を積ませること、また構成要素によって数値の差が大きい児童への働きかけを工夫することを意識して、学級経営と授業づくりに取り組みました。

二つの研究授業における学級全体及び個への働きかけと、授業研究会の成果を紹介します。

（１） Ａ教諭の取組

児童に学習の流れを意識させる

事例１　　理科　４年　「１日の気温の変化」

ねらい	１日の気温の変化の仕方は、天気によって違いがあると考えることができる。
本時の概要	１　グループごとに１日の気温の変化の表をグラフにする。 （１人で１日分担当し、グループで４日分作成） ２　４枚のグラフを比較し、気付いたことをまとめる。 ３　各自がまとめた気付いたことについて、グループで話し合い、気温の変化の仕方は何によって変化するのかを考える。

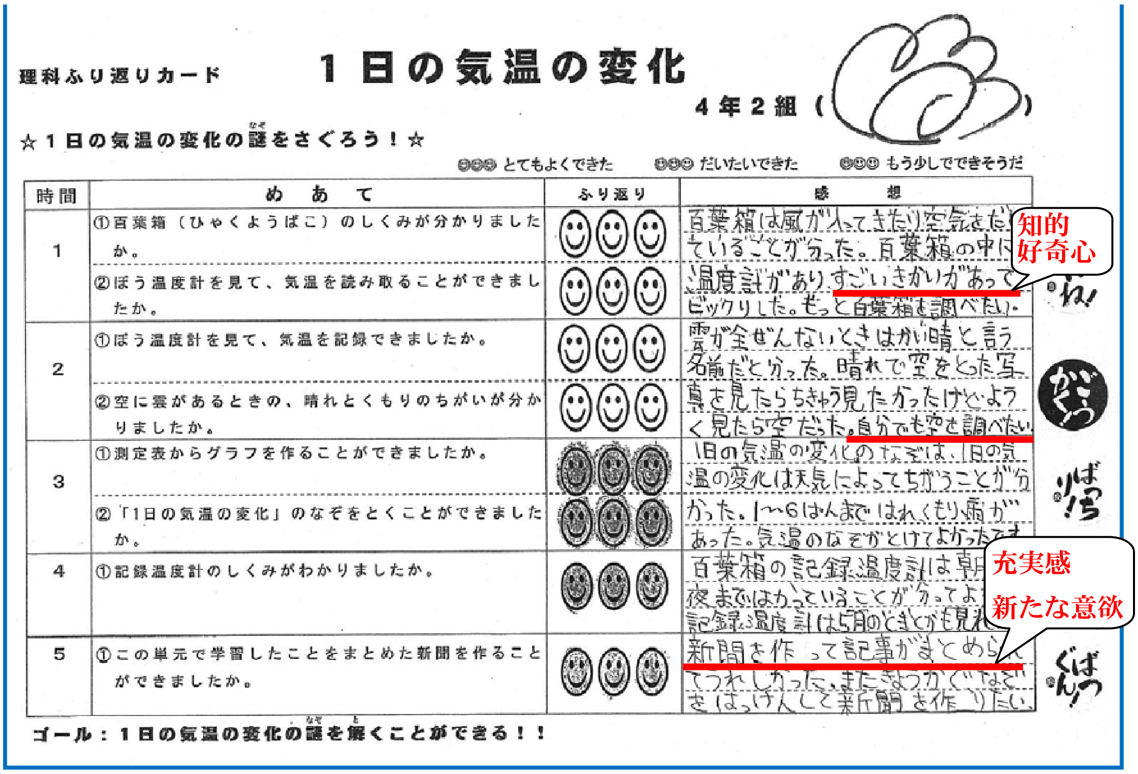
振り返りカードの工夫（有能さへの欲求、知的好奇心、充実感）＊

＊（　　）内の構成要素に働きかけることを表しています。以下同様。

使用した振り返りカードには、次のような特徴があります。

・各時間の学習のねらいが示してあり、児童は見通しをもって学習活動に取り組むことができる。

・めあてに対する自分の頑張りや達成度、授業における気付きを確認することができる。



理科ふり返りカード　**１日の気温の変化**　４年２組（　　）

☆１日の気温の変化の謎をさぐろう！☆

とてもよくできた　だいたいできた　もう少しでできそうだ

時間	めあて	ふり返り	感想
1	①百葉箱（ひゃくようばこ）のしくみが分かりましたか。 ②ぼう温度計を見て、気温を読み取ることができましたか。		百葉箱は風が入ってきたり空気もた…ていることが分った。百葉箱の中に温度計がありすごいきかいがあってビックリした。ぞっと百葉箱を調べたい。
2	①ぼう温度計を見て、気温を記録できましたか。 ②空に雲があるときの、晴れとくもりのちがいが分かりましたか。		雲が全ぜんないときはかい晴と言う名前だと分った。晴れで空をとった写真を見たらちきゅう見たかったけどよく見たら空だった。自分でも空を調べたい。
3	①測定表からグラフを作ることができましたか。 ②「１日の気温の変化」のなぞをとくことができましたか。		１日の気温の変化のなぞは、１日の気温の変化は天気によってちがうことが分かった。１〜６はんまではれくもり雨があった。気温のなぞがとけてよかったです
4	①記録温度計のしくみがわかりましたか。		百葉箱の記録温度計は朝…夜まではかっていることが分ってよ…記録温度計は５月のときとかも見れ…
5	①この単元で学習したことをまとめた新聞を作ることができましたか。		新聞を作って記事がまとめられてうれしかった。またきかいなどをはっけんして新聞を作りたい。

ゴール：１日の気温の変化の謎を解くことができる！！

他の児童のカードには、５時間目の新聞作りについて、次のような記述が見られました。

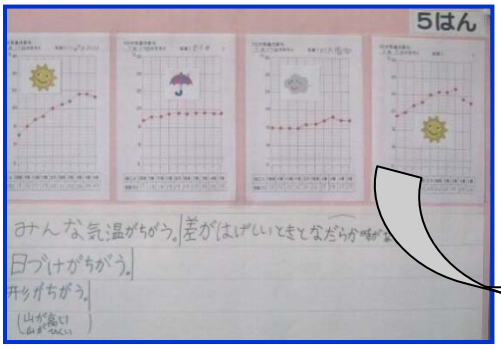
・新聞もうまくできてうれしかったです。できたら冬の気温も調べていきたいです。

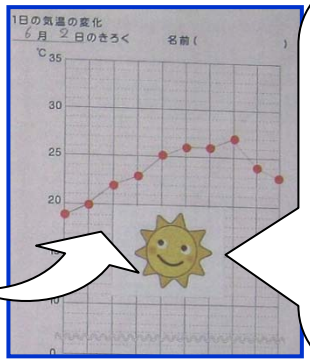
・新聞完成！「おめでとう」って自分に言いたいな。ふしぎがすべてとけたよ。

有能感　　知的好奇心

課題提示の順序と方法の工夫（知的好奇心、おもしろさ・楽しさ）

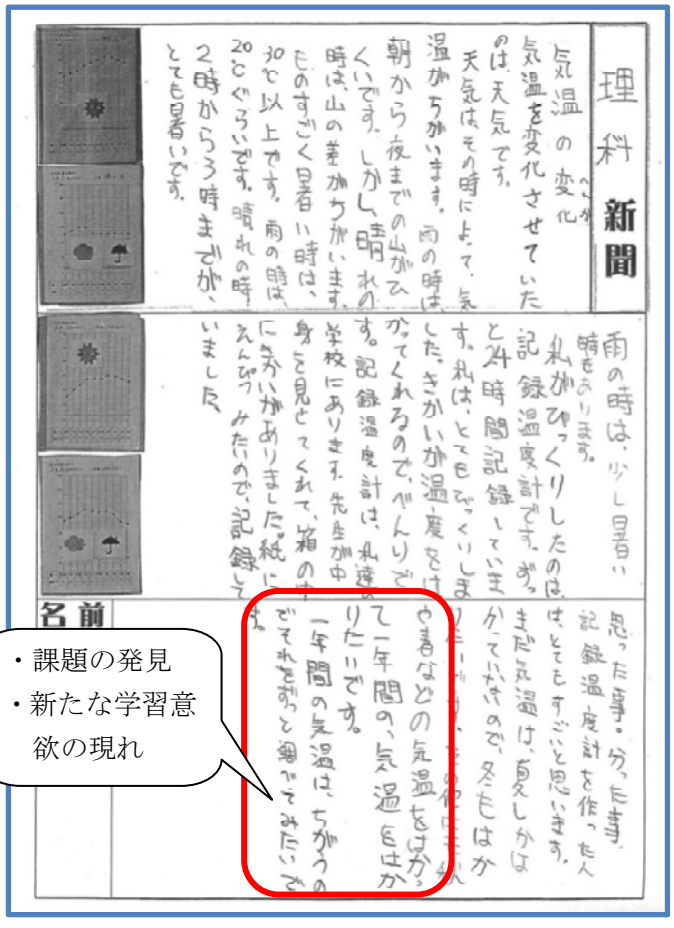
1　気温の変化のデータをとらせる。（事前）
2　データを基にして異なる形状のグラフをかかせ、「気温の変化の謎を探ろう」と働きかけた。（各グループで、４枚のグラフから考えさせる）





授業の終盤に、1か月の天気の一覧表を配布し、各自が書いたグラフの天気を確かめさせました。そして、「お天気シール」を添付させると、天気とグラフの形状の関連が確認でき、「なるほど」の声があがりました。

新聞づくりによる学習のまとめ（充実感、知的好奇心）



・課題の発見
・新たな学習意欲の現れ

A教諭は、前時までのワークシート、ノート、振り返りカードなどを参考にして、新聞を作らせ、学習の成果を確認させました。

分かったことや、驚いたこと、新たに調べたいことなどを記述する子どもが多く、学ぶことが楽しいと感じていることが読み取れます。

【一人で考えをまとめている様子】

教師の振り返り

一人一人に別の日のデータを与えたことで、意欲が高まりました。グループ学習の場面では、進行、記録、発表などの役割を分担させ、主体的に参加できるようにしました。

学ぶおもしろさを子どもに実感させるには、子どもが疑問をもつような課題の与え方や発問を工夫することが大切だと分かりました。

身近な題材を取り扱うなど、課題の設定を工夫する

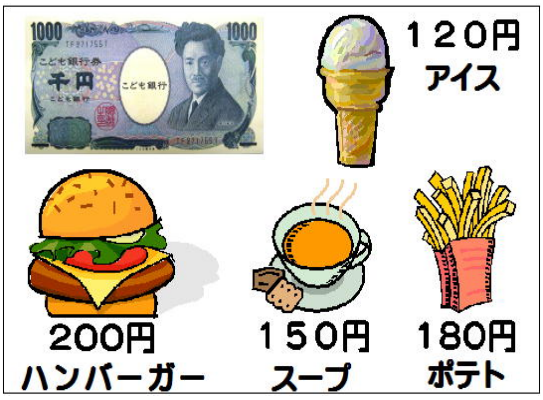
事例２　　算数　４年　「式と計算」

ねらい	買物の場面を考え、問題を作ったり、四則混合の式や（　　）を使った式に表したり、式から場面を想像したりすることができる。
本時の概要	１　ねらいの提示「問題作りをしよう」（お店のメニュー表を提示） ２　教師が提示した問題から、立式の練習をする。〔一斉・個人〕 ３　各自が、問題を作る。〔個人〕 ・買物の場面をイメージし、ホワイトボードに絵カードと数字を組み合わせながら、式を考える。 ・ワークシートに問題文を書く。 ４　グループで、問題を出し合い解き合う。〔グループ〕 ５　教師が意図的に選んだ問題を解く。〔一斉・個人〕 ６　発展的な問題として、教師が提示した式（子どもからは出てこない型）から問題文を考える。 ７　振り返りカードを書く。

教材教具の工夫（知的好奇心、自発学習）

導入では、買い物の場面を取り上げ、下図のようなメニュー表を提示し、商品の絵カードを配付しました。

ハンバーガーショップ　メニュー表



〔具体物を活用したことの効果〕
- 買い物の場面を想像できた。
- 文章問題を作るときに、絵カードを使った式に表してから問題文を考えると、作りやすい。
- 友達が作った問題を解くときに、ホワイトボード上で、絵カードを動かしながら考えられるので立式しやすい。

〔子どもが立てた式の例〕

（　 　＋　 　）×３＝（１２０＋１８０）×３
＝３００×３
＝９００

問題
・１２０円のアイスと１８０円のポテトを３つずつ買います。代金はいくらでしょうか。

発展的な問題の提示（挑戦行動）

〔発展的な問題を取り上げた活動の効果〕
・友達の問題よりも、複雑であったことにより、「難しい問題に挑戦する」という気持ちが高まった。
・式の意味を問うことにより、新鮮さが感じられたようだ。
・式には意味があることと、様々な出題が可能であることに子どもが気付いた。

【発展的な問題の提示】

〔本時の子どもの振り返りから〕
・問題を作ったり、友達が作った問題を解いたりすることが楽しかった。
・○○さんの問題は、たし算、かけ算、ひき算があって、よい問題だと思いました。
・先生の出してくれた難しい問題がおもしろくて、勉強になりました。

【第１回と第２回アンケートの比較】

要素	安心して学べる環境	知的好奇心	挑戦行動	有能感
第１回	3.36	3.70	3.73	3.05
第２回	3.88	3.86	3.98	3.66

安心して学べる環境のもと、知的好奇心や挑戦行動を中心に働きかけたところ、数値に伸びが見られました。日々の授業の中で、一人一人の子どもの発言を受け止め、ほめたり励ましたりしながら指導した結果、有能感も高まっています。

アンケート結果から気になる児童への支援

第１回のアンケート結果から、要素による差が大きい児童に視点を当て、事例２の算数の授業を通して意図的な働きかけを工夫しました。

	Kさん	Mさん
普段の様子	・気持ちにむらがあり、やる気になるとどんどん取り組むが、調子がでないときははかどらない。	・学習面ではあきらめが早く、大きな声で「分からない」と叫ぶことが多い。
授業での関わり	・問題作りでは、「それでいいんだよ」など、励ましの声をかけた。 ・問題を解く活動では、グループ内で相談し合うことで、深い思考へと向かわせ、問題を解く楽しさを味わわせた。	・教師からの声かけを多くし、集中して取り組ませた。 ・問題作りは苦労することが予想されるため、具体物を使って立式することにより、問題文につなげた。

【Ｋさんの単元全体の振り返り】

いろいろな式や計算をして、とても楽しかったです。それは、自分で問題を作ったり友達の問題を協力して解いたりしたからです。いろいろな計算をしたので、どんな問題でも解ける気がします。私は、算数が好きなので、もっと難しい問題にチャレンジしたいと思います。

振り返りの記述から K さんは協同学習のよさや学ぶ楽しさを実感していることが分かります。「もっと難しい問題にチャレンジしたい」とは、学ぶ意欲の構成要素の「挑戦行動」であり、新たな学ぶ意欲に繋がったと言えます。

【Ｍさんの単元全体の振り返り】

計算が早くできるようになって、－から÷まで完ぺきにできました。

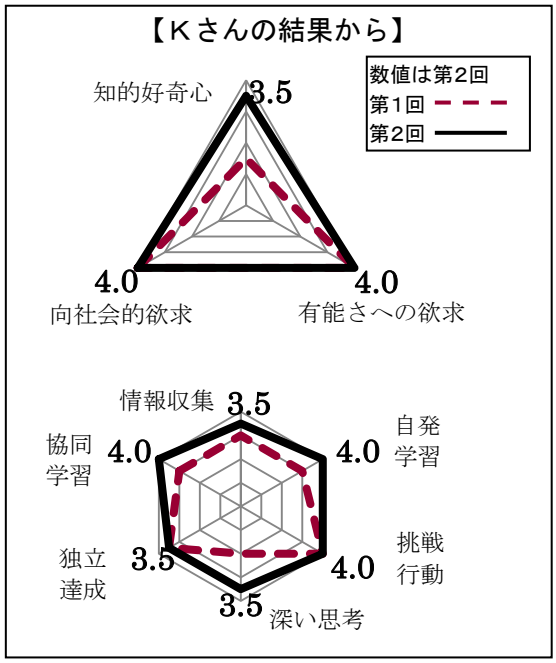
2けたの引き算もあるので、がんばって完ぺきにしたいと思います。「おまかせ名人」*には なっていないので、「おまかせ名人」になりたいと思います。

＊は、本単元のめあて「計算おまかせ名人になろう」からきています。

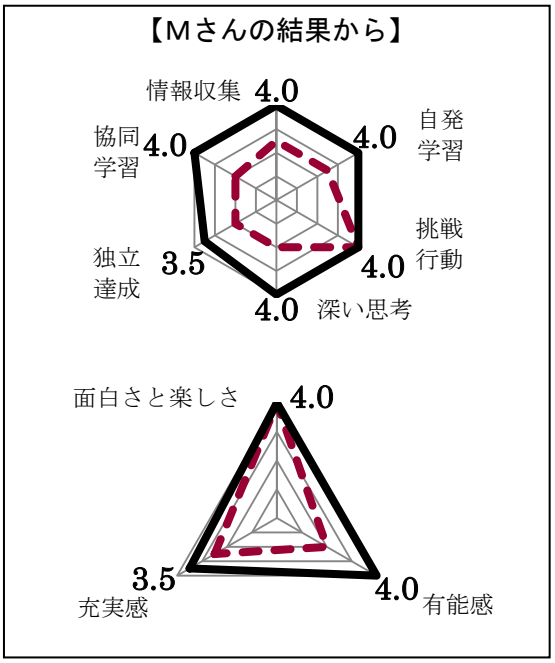
Mさんは、算数に対して苦手意識をもっていましたが、単元を通して、計算が正確にできるようになったことで、「有能感」が得られたと考えられます。

第２回のアンケート結果は、次のようになりました。二人ともほとんどの要素で数値が伸び、バランスもよくなっていることが分かります。

【Ｋさんの結果から】



【Ｍさんの結果から】



教師の振り返り

・視点を当てた二人の子どもを重点的に見たことにより、その二人は安心して学んでいました。
・Ｋさんは、導入での買い物の場面に興味がもてたので、時々励ます程度で、自分から学習を進めることができました。
・普段のＭさんは、大きな声で、「先生、先生。」と呼び、「分かんないよ。」と言っていました。本時では、何度かそばに行って指導したため、大きな声を一度も出さずに、問題作りに取り組めました。問題の解決策が分からないＭさんは、これまではいつも寂しい思いをしていたのだと感じました。

（２）校内研修での取組

事例２の授業研究会では、参観した先生方からの気付きとして、子どものつぶやきを受け止めつつテンポよく進めるすばらしさ、課題の提示の工夫による知的好奇心の高まり、発展的な問題の準備による挑戦行動の高まりなどが出されました。課題についても検討され、解決策を考えていきました。

下の表は、授業研究会で出された付箋を学ぶ意欲の視点でグルーピングしたものです。

授業の流れ	授業研究会で出された意見
１ねらいの提示 （ハンバーガーショップのメニュー表を提示） 「問題作りをしよう」 ２教師が提示した問題から、立式をする練習をする。〔一斉・個人〕 ３各自問題作りをする。〔個人〕 ・買物の場面をイメージし、ホワイトボードに絵カードと数字を組み合わせながら、式を考える。 ・ワークシートに問題文を書く。 ４グループで、問題を出し合い解き合う。〔グループ〕 ５教師が意図的に選んだ問題を解く。〔一斉・個人〕 ６応用問題として、教師が提示した式（子どもからは出てこない型）から問題文を考える。 ７振り返りカードを書く。	**知的好奇心** ・身近な教材で興味をもって取り組んでいた。 ・具体物が有効で、絵カードと数字を組み合わせて式を作るのが分かりやすかった。 **安心して学べる環境づくり** ・Ｋさんが自信なさそうに首をかしげていた。先生が「いいんだよ。これで。」と声をかけていたので、式と答えが書けた。 **有能さへの欲求** ・問題の作り方の説明がポイントを押さえていたので、学習の見通しをもって、取り組めた。 **有能感** ・1000 円札の使い方について、質問すると、「おつり。」と答えた。「さすが！頼りになるね。任せたよ。」との声かけに嬉しそうだった。 ・「みんなが作った問題は、宿題にしたり、朝の自習にしたりして解いてもらうよ。」の言葉に「うれしい。」という声が上がる。 **自発学習** ・1問目は先生が絵カードで説明して立式、2問目は1問目に習って自分で立式することができた。 **挑戦行動**　**おもしろさ・楽しさ** ・先生が作成した応用問題に対して「解いてやる！」と意欲を見せた。 ・式から問題を考えるという角度を変えた問題は、さらに意欲を刺激していたように思う。 **新たな学ぶ意欲** ・振り返りカードには、「もっと解きたい」「応用問題が楽しかった」などとあり、意欲が高まっていた。

教師の意欲が高まる校内研修

夏休に子どもたちの学ぶ意欲を高めるために、ワークショップ型の校内研修を行いました。

それぞれの教員が、学ぶ意欲のプロセスモデルを参考に、授業で実践していることや考えられるアイディアを付箋に書き、紹介し合いました（p 62 参照）。この研修をきっかけに、個々の教師が学ぶ意欲をはぐくむ要素に着目し、日々の授業に取り組むようになりました。その結果、事例２の授業研究会では、学ぶ意欲の視点からの意見が数多く出されました（p 64 参照）。

【学ぶ意欲の視点からの協議の様子】

授業研究会後の先生方の声

- 学ぶ意欲が育つプロセスを知って、いろいろな角度から授業を観ることができるようになりました。また、子どもの立場で参観し、その場その場で、意欲の高まりの度合いを考えるようになりました。
- 授業を参観する際は、子どもの表情が変わる瞬間を見て、その理由を考えるようになりました。
- 自分では気が付かなかった視点での意見がいくつか出されていて、参考になりました。今後、授業をする上で生かしていきたいと思います。
- 校内研修を実施することにより、教員の学ぶ意欲も高まっていると思います。

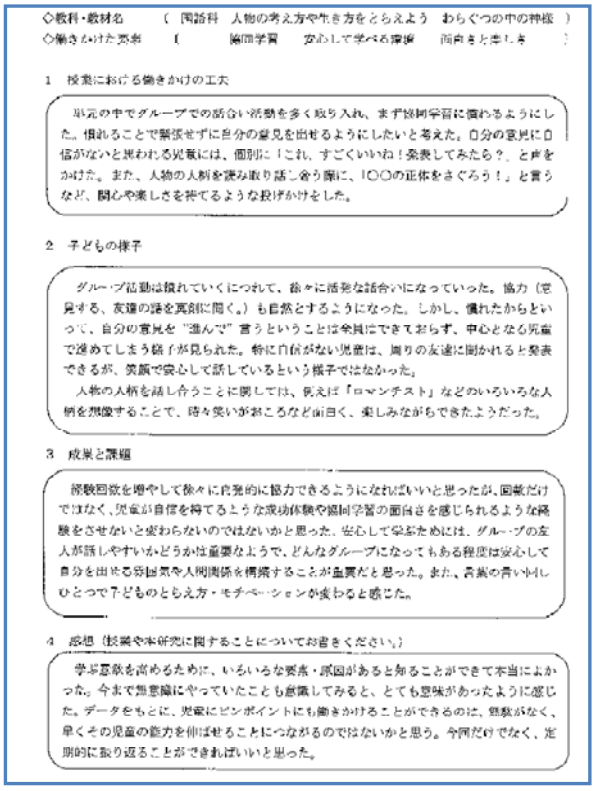
研究の成果を実感する冊子

12 月には、学ぶ意欲について取り組んできたことを、各教師がレポートにまとめ、読み合いをして指導法の共有化を図りました。

第１回アンケートの結果、数値が低めであった構成要素に対して、各自がどのような働きかけをしたのかについて発表し合うことで、成果と課題が意識されました。

自分の学級以外の授業に出る場合には、その学級のアンケート結果に目を通し、学級担任と重点目標を共有して授業をすると、学ぶ意欲を高めるのに効果的です。

【教師のレポート】



◇教科・教材名　（　国語科　人物の考え方や生き方をとらえよう　わらぐつの中の神様　）
◇働きかけた要素　（　協同学習　安心して学べる環境　面白さと楽しさ　）

1　授業における働きかけの工夫

単元の中でグループでの話合い活動を多く取り入れ、まず協同学習に慣れるようにした。慣れることで緊張せずに自分の意見を出せるようにしたいと考えた。自分の意見に自信がないと思われる児童には、個別に「これ、すごくいいね！発表してみたら？」と声をかけた。また、人物の人柄を読み取り話し合う際に、「○○の正体をさぐろう！」と言うなど、関心や楽しさを持てるような投げかけをした。

2　子どもの様子

グループ活動は慣れていくにつれて、徐々に活発な話合いになっていった。協力（意見する、友達の話を真剣に聞く。）も自然とするようになった。しかし、慣れたからといって、自分の意見を"進んで"言うということは全員はできておらず、中心となる児童で進めてしまう様子が見られた。特に自信がない児童は、周りの友達に聞かれると発表できるが、笑顔で安心して話しているという様子ではなかった。

人物の人柄を話し合うことに関しては、例えば「ロマンチスト」などのいろいろな人柄を想像することで、時々笑いがおこるなど面白く、楽しみながらできたようだった。

3　成果と課題

経験回数を増やして徐々に自発的に協力できるようになればいいと思ったが、回数だけではなく、児童が自信を持てるような成功体験や協同学習の面白さを感じられるような経験をさせないと変わらないのではないかと思った。安心して学ぶためには、グループの友人が話しやすいかどうかは重要なようで、どんなグループになってもある程度は安心して自分を出せる雰囲気や人間関係を構築することが重要だと思った。また、言葉の言い回しひとつで子どものとらえ方・モチベーションが変わると感じた。

4　感想（授業や本研究に関することについてお書きください。）

学ぶ意欲を高めるために、いろいろな要素・原因があると知ることができて本当によかった。今まで無意識にやっていたことも意識してみると、とても意味があったように感じた。データをもとに、児童にピンポイントにも働きかけることができるのは、無駄がなく、早くその児童の能力を伸ばせることにつながるのではないかと思う。今回だけでなく、定期的に振り返ることができればいいと思った。